

市町村名又は学校名	湯梨浜町立泊小学校
研究主題	単独校における栄養教諭を中核とした食育の取り組み ～体験学習等を通じた地産食材の伝承と食文化の継承についての研究～

1 (地域の特徴、学校等の概要等)

湯梨浜町立泊小学校は、鳥取県中部の海沿いに位置している。山と海が隣接している自然豊かな地域の中にあり、児童106名、教職員24名の小規模な学校である。湯梨浜町の特定地域選択地域制度により、町内羽合地域の児童も通学している。調理場があるランチルームは本校の特徴の一つでもあり、地域との関わりを目指して地場産物を積極的に毎日の給食に取り入れている。

2 (児童生徒等の実態・主題設定の理由等)

全校児童がそろって給食を食べるランチルームでは、給食委員会が栄養黒板を示しながら、毎日の献立紹介や地場産物の活用を伝えていた。しかし、コロナ禍の中ここ2年あまり実施できていない。1～3年生がランチルーム、4～6年生が各教室で分散して喫食しているからである。現在は校内放送を使った紹介のため、特に低学年の児童は視覚的に内容を理解するのが難しいようである。そのため、月に何回か栄養教諭が各教室をまわり、自作の教材を用いた食の指導を行っている、また、ランチルーム前のサンプルケースや献立の掲示板を用意しているが、放送を聞き給食を楽しみながら食べることができる方法がないか模索しているところである。

3 (目指す姿や目標等)

泊小学校には、それぞれの学年で地域と関わるいろいろな学習活動がある。特に3年生は、総合的な学習の時間や社会科の中で、二十世紀梨の袋掛けと収穫体験、ワカメの根付け・収穫体験、ハウレンソウ栽培農家の見学など、地域の食材に関する体験活動を行う。その体験学習の中で、地域食材と自分たちの食の関係にまで意識を広げることで、「泊地域のよさに気づき、ふるさとを大切にしよう」という気持ちが育まれるのではないかと考えた。

4 具体的な取組内容

(1) 献立計画及び実施と実施後の給食掲示

- ① うまいDAYの取り組みによる湯梨浜町産(鳥取県産)の食材を使った献立作成。毎月19日の日は、湯梨浜町産(鳥取県産)の食材を使った献立にし、その食材を掲示
- ② とっとり県民の日「鳥取県を応援しおいしく食べよう」のねらいに沿った献立作成。郷土料理への興味関心を高めるように、鳥取県の郷土料理「大山おこわ」を取り入れる
- ③ 12月の給食のねらい「日本の食文化を伝えよう」に基づいた献立作成。日本の食文化を知ることで、鳥取県の豊かな恵みに気づかせるため、九州地方(8県)の郷土料理の献立を実施し、実施県とその特産品を掲示する。

(2) 地域の人々とのかかわりによる体験活動と泊地域の食材を活用した献立作成

- ① 社会科見学で関わる泊ハウレンソウ農家の見学の様子



②総合的な学習で関わる二十世紀梨の袋掛け・収穫体験

及びワカメの根付・収穫体験

収穫後に給食に取り入れるように計画実施、

収穫体験などの様子の掲示、振り返り学習で感想を書いた。

③総合的な学習で関わった地域の方のインタビュー映像の作成。

生産者の思いを聞き、給食に取り入れることで、食べることへの意欲が高まるように映像を作成し視聴する。



(3) 給食委員会の活動

①毎日の給食放送

放送原稿を読み、その日の献立や食材について放送する。

昼休憩にランチルームにある

栄養黒板を次の日に使用する食材カードに交換し、

鳥取県の食材を記載してサンプルケースの横に掲示する。



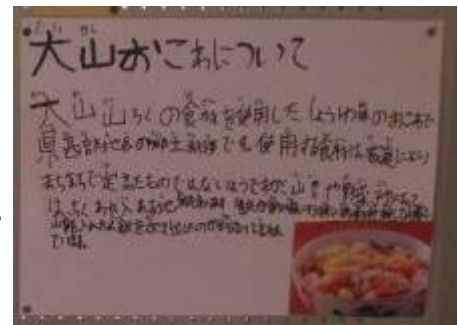
②泊小学校給食週間の取り組み

11月に実施している泊小学校給食週間に合わせて、委員会の児童が、鳥取県の郷土料理を調べまとめたものを掲示する。そして、実際の給食で喫食する

③給食週間アンケートの実施(給食委員会の活動について

→郷土料理についてのアンケートを実施する。

掲示の閲覧の有無確認や、興味関心のあった料理を知り、今後の活動に生かす資料とする。



5 成果

・ 掲示板の閲覧について

毎日のサンプルケースだけでなく、掲示も視覚的にわかりやすく掲示板にも工夫をしたら、興味を持ち見ている児童が少し増えてきた。

・ 給食の残量の様子について

どの学年も食缶等に残っている分もおかわりして食べている。苦手なものでも一口は必ず食べるように一律に声かけ指導をしている。

・ 食材への関心の高まりについて

中学年では、食材に関心を持ち、果物の名前を確認する児童もみられる。郷土料理などを食べている自分たちが写った写真を見て喜ぶ姿が見られ、掲示も効果的であったと思われる。

・ 体験活動を通じた児童の様子について(3年生)

活動後の振り返りの感想に、初めて知る内容に対する興味・関心への高まりを感じられた。

生産者の話を直接聞くことで、生産者の苦勞を感じ感謝する気持ちが見られた。ワカメの収穫体験で、予想よりも大きく育っているワカメに驚き、寒い作業の中、ワカメが収穫されることを知り、



地域の方を思いやる気持ちが見られた。給食に登場したハウレンソウが見学に行った生産者の栽培したものかを聞いて、3年生全員に周知する児童がいる。かかわっている人が作った野菜は残さず食べようと感じているようだ。二十世紀梨も、収穫体験をした初秋時期の食べものであることを感じているようだった。

・全校の様子（3年生以上）

朝の放送で、給食の献立が紹介するため、何が出るのかを知っている児童もいるが、体験活動をした学年の児童の多くは、関心が高くとても楽しみにしているようである。二十世紀梨、ワカメの収穫体験も、3年生以上の児童が経験しているため、給食に出ることを心待ちにしている児童が多かった。



- ・うまい DAY に「星空舞」を取り入れることで、日々のごはんとの違いを感じ、認知が高まっていると思われる。星空舞週間(7月と1月)も同様である。
- ・郷土料理を給食の献立に取り入れることによって、給食への意識が高まりつつあると感じる。
- ・給食で登場する回数が多い郷土料理や特産品を利用した料理は、認知度も高く好まれる傾向がある。

6 課題

- ・給食委員会の活動として、掲示だけでは理解できないことが分かった。次年度の課題として、ICTの活用による活動も目指していきたい。
- ・給食委員会の取り組みを行って満足するだけでなく、児童全員に印象に残るような取り組みになると、委員の達成感を持たせながら、日々の活動意欲が高まっていくのではないかと感じている。
- ・ICTを活用し、どのように発信すれば、全校の児童に理解してもらえるかを模索していきたい。

7 (まとめ・今後の取組等)

- ・地域の食材に関する体験学習を行う中で、「泊地域のよさに気づき、ふるさとを大切にしよう」という気持ちが少しずつ育まれているようである。どのように、地域食材が自分たちの食と関係しているのかに気づき、さらに故郷を大切にする意識が深まるよう、共通理解を持ちながら、教職員全体で進めていきたい。